

基幹システムの帳票環境を個人認証印刷と SVF の連携で実現 帳票アーキテクチャの統一でオフコン専用プリンターも廃止に

Interview



技術統括本部 システム推進センター
部長
山川 裕氏 (写真中央)

技術統括本部 システム推進センター
プロジェクトディレクター
小池 隆敬氏 (写真左)

技術統括本部 システム推進センター
プロジェクトリーダー
南 成雅氏 (写真右)

IC カードリーダーによる認証と印刷オペレーション

帳票の電子化による業務の生産性向上で、エコにも貢献

業務知識と最先端技術、ノウハウで 顧客の IT ニーズに応える ISID

電通国際情報サービス (ISID) は、顧客のビジネスを、顧客とともに革新していく「Customer Business Innovation」を中期経営計画のテーマに、顧客の課題解決を支援している。その範囲は、あらゆるビジネス領域において、コンサルティングをはじめ、システム開発、ソフトウェア製品の提供/サポート、ハードウェアの選定/調達、インフラ構築、運用管理など、さまざまなサービス提供に及ぶ。

常に顧客の IT ニーズに応えるための業務知識と最先端技術、付加価値となるノウハウを蓄積し、進化したトータルソリューションを提供することを目指す ISID では、2009 年 4 月に受発注処理や支払い処理、管理会計など、業務に必要なすべてのシステムを統合した基幹システムの再構築を実施。その一環として SVF を採用した帳票基盤を開発し、個人認証印刷を実現するキャノンマーケティングジャパンの「Personal ListPrint for MEAP (※)」との連携を実現した。

再構築する基幹システムと 個人認証印刷の連携が鍵に

ISID では、受注システムや発注システム、請求システムなどの業務システムが、個別に開発されてきたために、システムの統合が望まれていた。またグループ会社の急激な増加に伴い、グループ会社も含めた業務の一元化が可能なシステムの実現も重要な課題のひとつだった。

そこで ISID は、順次構築してきた業務システムを統合し、一気通貫のデータ処理フローを実現することを目的に、基幹システムを再構築することを決定。2006 年の春に業務フローの見直しも含めた基幹システムの再構築プロジェクトをスタート

し、2009 年 4 月より新しい基幹システムを本番稼働させている。

ISID の技術統括本部 システム推進センター プロジェクトディレクターである小池 隆敬氏は、「開発者の側面でも、各システムが PC やオフコンなど、さまざまなアーキテクチャで構築されていたので、管理が煩雑になっていました。そこでアーキテクチャを統一し、システム管理を効率化することも基幹システム再構築の重要な目的でした」と話す。

さらに IT 統制の確立も目的のひとつ。ISID の技術統括本部 システム推進センター部長 山川 裕氏は、「IT 統制に関しては、データをできるだけ電子化された状態で利用できる仕組みが必要でした。たとえば、帳票を PDF 化したり、電子化されたワークフローにより、印鑑の捺印を最小限にしたりすることなどで」と話している。

また ISID では、基幹システムの再構築とは別に 2007 年より導入を推進している Personal ListPrint for MEAP と、基幹システムから出力される帳票を対応することも必要だった。

PDF や Java に対応した SVF を採用 帳票の電子化とセキュアな印刷を実現

ISID が構築した基幹システムでは、業務で利用している PC から帳票作成処理を実行し、作成した帳票を PDF 化して PC の画面上で確認することができる。また帳票をプリンターに出力する場合には、Personal ListPrint for MEAP の管理下でセキュアに印刷することが可能になっている。プリンターや複合機に搭載された IC カードリーダーで社員証としても使用されている IC カードの内容を読み込み、認証基盤システムで認証が行われ、本人の帳票のみがプリンターや複合機に出力される。

またバッチ処理で作成する帳票は、アプリケーションからプリンターや複合機へ送信する帳票デ

Company Profile

株式会社 電通国際情報サービス

設立：1975 年 12 月 11 日

所在地：東京都港区

事業内容：コンサルティングサービス、ソフトウェア・プロダクト販売/サポート、システム・インテグレーション・サービス、アウトソーシング・サービスなど、顧客の課題を解決するためのあらゆるサービスを展開。

URL：http://www.isid.co.jp/

IT Solution Innovator
株式会社 電通国際情報サービス

導入背景

- 帳票アーキテクチャの統一
- 個人認証印刷システムとの連携

導入ポイント

- Java や PDF のサポート
- プリンター非依存の印刷環境の実現
- 他の開発で採用した経験と実績

導入効果

- 帳票の電子化による IT 統制への貢献
- オフコン専用プリンターの廃止
- 紙の削減やエコへの意識向上

ータにユーザー情報を付加することでセキュアな印刷を実現している。帳票生成の仕組みとしては、アプリケーションサーバーがデータベースサーバーから必要なデータを抽出し、SVFが搭載された帳票サーバーで帳票を生成し、プリンターや複合機に送信されている。PCへは帳票サーバーでPDF化も行いアプリケーションサーバー経由でブラウザに送信される。

SVFが採用された理由を小池氏は、「SVFは、PDF出力が可能のほか、プリンターに依存しない帳票システムが構築できる点を高く評価しました。また、基幹システムはJavaで構築されているので、Javaに対応していることも重要でした」と話している。

帳票アーキテクチャの統一で業務生産性を向上

今回の基幹システム再構築では、70種類に及ぶ帳票をSVFで開発し、約80台のプリンターおよび複合機に出力されている。SVFでの開発のメリットについて小池氏は、「帳票開発では、SVFを利用した経験やノウハウ、実績があったことはもちろん、SVFの高い開発生産性と操作性により、スケジュールどおりにシステムを開発できました」と話す。

「1枚の単票帳票から数百ページに及ぶ管理帳票まで、管理部門だけでも月間3万部程度の帳票を出力していますが、帳票システムは安定稼働しています。またSVFによるPDF化で帳票を電子的に保存、利用することやPersonal ListPrint for MEAPを組み合わせた個人認証印刷を導入したことによって紙出力を削減することができました」（小池氏）

さらにSVFを導入する前は、PCベースの帳票やオフコンベースの帳票など、さまざまなアーキテクチャで帳票が開発されており、メンテナンスや運用管理に大きな負荷がかかっていた。今回、帳票システムをSVFで統一したことで、ひとつのアーキテクチャによるメンテナンスが可能になり、システムの管理性も向上している。

ISIDの技術統括本部システム推進センタープロジェクトリーダーである南成雅氏は、「オフコン専用のプリンターを廃止することができ、すべて汎用のプリンターや複合機から出力できるようになったので、管理も非常に楽になり、利用者からの要望にも特別な開発をすることなく、短期間かつ柔軟に対応できるようになりました」と語る。

南氏はさらに、「SVFは運用面でも非常に安定

して稼働するので助かります。また以前は、専用プリンターに一括で出力され、仕分けして各部門に配布するために、担当者に届くまでに時間がかかっていた帳票が、手元のプリンターや複合機に出力できるようになったので、業務効率が向上し、便利になったと利用者からも好評です」と話している。

グループ会社や未対応アプリにも展開プリンターや場所を選ばない印刷にも期待

SVFとPersonal ListPrint for MEAPを組み合わせた帳票システムはISIDとグループ会社3社に展開され、約2000名が利用している。「今後は、まだこの仕組みを導入していないグループ会社や、まだ適用されていない帳票にも順次対応していく計画です」と小池氏は言う。

また現在、利用者は出力時に印刷するプリンターを選択しなければならないが、今後はどのプリンターに出力するかを利用者が意識することなく、社員証をかざしたプリンターに出力される「Anyplace Print」と呼ばれる仕組みの導入も検討している。

今後の展望について山川氏は、「新しい基幹システムを構築したことで、必要なデータは統合的に収集できるようになりました。今後は、このデータをいかに経営戦略などに生かしていくかが重要であり、そのための仕組みの実現を検討していきたいと考えています」と話している。

導入製品

Super Visual Formade (SVF)

膨大な帳票開発の効率化と多様な出力機能に応えるための、帳票開発支援ツール

SVF for Java Print

各社プリンターのコマンドに対応した高速印刷ドライバーを搭載し、固有のプリンター機種に依存しないオープンな快速印刷を実行

SVF for PDF

PDF帳票を出力するだけでなく、本格的な業務で求められる効率的な文書管理機能を加えた付加価値の高いPDFを生成するソフトウェア

Universal Connect/X

各種Java対応実行モジュールとの組み合わせにより、ノンプログラミングで用途にあった帳票出力を実行するソフトウェア

※ Personal ListPrint for MEAPとは：認証システムと連携し、プリントサーバーを使わず複合機のみで個人認証プリントを実現するシステム。キヤノンマーケティングジャパン社製。

Personal ListPrint for MEAPとの連携はSVF Ver8.2以降が対応可能

